

船室について

- 全座シャワー・トイレ・冷蔵庫完備です。
- 船室は、上段ベッド付となる場合がございます。指定はお受けできません。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのお一人様利用は、ご旅行代金の200%となります。D1、D2は180%です。
- A1、A2、A3、A4、B、D1クラスは、洗浄機能付きトイレを完備しています。
- C1、G、I、Mクラスの1室申し込みでは、洗浄機能付きトイレのオプション申込が可能です（有料）。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのソファは、ソファベッドとしてもご利用いただけます。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスの船室指定が可能です（船室指定後に旅行契約を解除なさる場合、船室指定取消料として旅行代金の5%を申し受けます。90日前以降は旅行条件記載の取消料に準じます）。
- お得な年齢割引もご利用ください（大人1名につき未成年1名無料（詳しくは弊社までお問い合わせください）。
- 船室申し込み込みのお客様はシャワー・トイレ、ロッカー、その他の設備は同室で共有です。
- セミシングルタイプ、フレンドリータイプは、船室内をカーテンで区切り、プライベート空間を提供するコンバートメントタイプです。
- 旅行開始時13歳未満（中学生を除く）のお子様連れの相应申し込みはお受けできません。
- フレンドリータイプの船室は、2段ベッドの下段指定が可能です（有料）。ベッド下のスペースは同室者との共有です。

ビザ（査証）取得について

- クルーズに必要なビザ（査証）は、弊社にて取得手続きの代行をいたします。
- 参加いただくオプションツアーによっては、ビザ取得のための追加代金や追加書類をご提出いただく場合があります。
- 日本パンフレット記載のビザ取得代金は日本国籍の方の代金です。日本国籍以外の方もお気軽にお問い合わせください。
- 米国入国には、ESTA認証（米国電子渡航認証システム）の事前取得が義務づけられています。（有料：21米ドル）
- 英国入国には、ETA（電子渡航認証）の事前取得が義務付けられています。（有料：10英ポンド）
- シェンゲン協定により、ご出発前のシェンゲン加盟国への旅行日数によって、当クルーズにご参加いただけない場合がございます。
- 2026年より欧州渡航情報認証制度（ETIAS）の導入が予定されています。

海外旅行保険への加入が必須です

ご旅行中に疾病や事故などの事態に遭遇し、思いもよらない高額の治療費用や救護費用などが発生した場合、法律上これらの費用は全てお客様個人のご負担となります。このような事態に備えるため、旅行期間のすべてがカバーされた海外旅行保険へ必ずご加入ください。海外旅行保険に加入されない場合、本旅行への参加をお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

旅行変更費用補償特約の同時加入をおすすめします

クルーズの取消料はご出発の90日前から発生しますので、ご自身はもとより、ご家族・ご親戚の病気・事故などでご旅行をキャンセルしなければならない場合に備えて「旅行変更費用補償特約」に加入することをおすすめします。

海外安全情報

外務省の治安に関する海外安全情報より下記の通り危険情報が発出されておりますが、現地手配会社、関係省庁、船舶代理店などから最新情報を得て、当社が安全と確認しましたので本旅行を催行いたします。

「レベル1」：十分注意してください
コロンボ、ポートサイド、カンクン、クリストバル、カヤオ、イースター島
尚、現地の治安および感染症など海外の安全に関する情報は、お客様自身でも確認していただきますようお願いいたします。

旅行代金一覧（単位：円）

船室クラス		※フレンドリータイプは、75歳未満のお客様限定です					
バルコニー／窓	フロア	ヘア （2人部屋）	相部屋可	シングル （1人部屋）	セミシングル （2人相部屋）	フレンドリー （3～4人相部屋）	
オーナーズスイート ペントハウススイート プレミアムスイート スイート ジュニアスイート	9-10	A1	15,050,000	—	—	—	—
	8	A2	11,400,000	—	—	—	—
	9-10	A3	9,890,000	—	—	—	—
	8	A4	9,270,000	—	—	—	—
	10	B	8,020,000	—	—	—	—
バルコニーⅠ バルコニーⅡ アウトサイドワイド アウトサイドビュー アウトサイドⅠ アウトサイドⅡ	10-12	C1	5,640,000	○	I 10,716,000	—	—
	9	C2	5,480,000	○	J 10,412,000	—	—
	9-11	D1	4,800,000	○	—	—	—
	8	D2	4,700,000	○	—	—	—
	8	E	4,490,000	○	K 8,082,000	E2 4,590,000	—
アウトサイドⅡ スタンダードインサイドⅠ スタンダードインサイドⅡ	5-6	F	4,320,000	○	L 7,776,000	F2 4,420,000	F4 4名 3,456,000
	8-11	G	3,400,000	○	M 6,120,000	G2 3,500,000	G3 3名 3,060,000
	5-6	H	3,280,000	○	N 5,904,000	H2 3,380,000	H4 4名 2,624,000

※いずれも大人お一人様旅行代金です

※H4クラスのフロアは8F-9Fとなります

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス（観光庁長官登録旅行業 第617号）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
www.japanrace.com

一般社団法人日本旅行業協会正会員 旅行業公正取引協議会会員

振込口座 口座名義はいずれも (株)ジャパングレイス	三菱UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1211859	三井住友銀行 高田馬場支店 普通 9103064	みずほ銀行 高田馬場支店 普通 1991082
----------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	-------------------------------

Coordinated by ビースポート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
TEL：03-3363-7561 / FAX：03-3363-7562 www.peaceboat.org

PHOTO：PEACEBOAT、職員美輝、上野隆文、坂浦崇志、千賀健史、松田咲音、水本俊也、桃井和馬、法志木優、吉田タイスケ、ソ・写ルグッド株式会社、Luis Barreto、Adobe Stock、shutterstock.com



【プライバシーポリシー】
株式会社ジャパングレイスでは、お客様からご提供いただく個人情報の取扱いについて、ウェブサイトにてご案内しております。
https://www.pbcruise.jp/privacy/

旅行条件(要旨) -詳しい旅行条件書をお送りいたしますので、内容をご確認のうえお申し込みください-

本旅行条件書は、旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書面および同法第12条の5に定める契約書面の一部となります。

1. 募集型企画旅行契約

本旅行はNGOビースポートがコーディネートし、株式会社ジャパングレイス（以下「当社」といいます）が企画・実施する旅行です。本旅行に参加されるお客様は、当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行契約」といいます）を締結することとなります。

2. 旅行のお申し込み

当社所定の旅行申込書に所定の事項を記入のうえ、申込金として旅行代金の5%にあたる金額（別紙参照）を添えてお申し込みください。当社が申込金の受領確認が出来た時点で正式なお申し込みとなります。

3. 旅行代金に含まれるもの

①旅行日程に明記した船舶の運賃 ②船内宿泊（ご請求書に記載された船室クラス）、船内イベント（一部有料あり）の代金 ③運賃に食事回数分の料金 ④船舶による手荷物運搬料金 ⑤添乗員の同行費

4. 旅行代金に含まれないもの（上記3項のほかは旅行代金に含まれません。その一部を以下に例示いたします。）

①オプションツアーの代金 ②船室クラス変更による追加代金 ③渡航手続費用（ビザ代・渡航手続代行手数料・予防接種料金等） ④船内のチップ ⑤ポートチャージ（港湾施設使用料等） ⑥国際観光旅客税 ⑦海外旅行保険料、電話代、飲み物代などの個人的費用 ⑧超過手荷物料金 ⑨ご自宅から発着地までの交通費・宿泊費・手荷物運搬費 ⑩船舶のフューエル（燃料）サーチャージ ⑪船舶に課せられるEU-ETS・FuelEU Maritime・GFI等、環境規制対応費（環境対応サーチャージ）

5. 旅行代金のお支払い

①旅行開始日の前日から起算してさかのぼって60日目に当たる日以降の当社の定める日までで申込金を除いた旅行代金及び諸費用等をお支払いください。②お申込金は使用客船の貸切代金の一部に使用いたします。

6. 特別補償

当社はお客様が企画旅行中に、急激かつ偶然な外来の事故により被られた一定の損害についてあらかじめ定める額の補償金および見舞金を支払います。

7. 取消料

お客様は次に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することができます。

旅行開始日の前日から 起算してさかのぼって	取消日	取消料
	91日前まで	無料
	90日前以降61日前まで	旅行代金の5%
	60日前以降31日前まで	旅行代金の10%
	30日前以降21日前まで	旅行代金の20%
	20日前以降3日前まで	旅行代金の30%
2日前（前々日）以降旅行開始日まで		旅行代金の50%
旅行開始後または無連絡不参加		旅行代金の100%

本旅行の使用客船は無連絡不参加によるものであり、いかなる理由であれ、旅行開始後の船舶に係る旅行代金の払い戻しはありません。

8. その他

①クルーズにご参加の場合は、海外旅行保険にご加入されることを必須といたします。②旅行条件に定める事項は当該旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」によります。なお、当社約款は当社ウェブサイトよりご覧いただけます。

このパンフレット記載内容は2025年7月25日を基準としています。

別途諸費用（単位：円）

※2025年7月25日現在の金額です

チップ合計	183,120
ポートチャージ合計	67,760
ビザ取得代金合計	19,000
国際観光旅客税	1,000

- 最少催行人員：1,000名
- 船中泊
- 日本人添乗員が同行します
- 食事：朝107回、昼106回、夕107回
- 医師、看護師が乗船します
- 使用客船：パンフィック・ワールド号（総トン数：77,441トン/全長：261.3メートル/全幅：32.25メートル/喫水：8.1メートル/乗客定員：2,419名/運航会社：シーホークコーポレーションリミテッドインク）

PEACE BOAT CRUISE VOYAGE 130

2028年8月出航 エーゲ海・カリブ海・南太平洋コース

横浜発着109日間 2028.8.21(月)～12.7(木)

The Multicolored Earth いま、悠久の時を旅する

Aug 2028
AEGEAN
CARIBBEAN
SOUTH PACIFIC



Kaohsiung	Kusadasi	Valencia	New York	Callao
Singapore	Santorini	Porto	Miami	Easter Island
Colombo	Piraeus	Liverpool	Cancun	Papeete
Port Said	Cagliari [Sardinia]	Reykjavik	Cristobal	Honolulu [Oahu]



パンフィック・ワールド号でゆく ビースポート地球一周の船旅

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス

V130-A

PEACE BOAT CRUISE

2028.8 Voyage130

地球の神秘を訪ね オーロラシーゾンの アイスランドへ

世界地図を広げると、ヨーロッパ北西の海に浮かぶ小さな島—アイスランドが目にとまります。日本からはユーラシア大陸をはさんでほぼ反対側に位置するこの島国では、壮大な滝が轟音を響かせて流れ落ち、苔むした溶岩台地からは間欠泉が勢いよく吹き上がります。そしてこの地は、大西洋中央海嶺に沿ってユーラシアプレートと北アメリカプレートが引き裂かれる、まさに地球が今も姿を変え続けている場所でもあります。

さらに、アイスランドはオーロラが頻繁に現れる「オーロラベルト」の中に位置し、この時期の夜空には幻想的な光のカーテンが舞い踊ります。

大地の鼓動を全身で感じられるこの島は、その力を最大限に利用した自然エネルギー先進国であり、また世界で最初に近代的な議会が創設された国として知られています。そして、世界平和指数では17年連続ナンバー1という記録を誇ります。平和を志向し、平等を重んじる文化が、社会全体に深く根づいているのです。

さあ、オーロラの季節。世界最北の首都・レイキヤビクでは、どんな出会いが待っているのでしょうか。地球の神秘を訪ね、人類の軌跡をたどる旅が始まります。



01 AMAZING AURORA

P4-7

地球、そして宇宙で一番美しい天体現象
オーロラを追いかけて



02 A BEAUTIFUL VOYAGE ACROSS TWO SEAS

P8-19

美しいエーゲ海、碧き楽園カリブ海

03 DESTINATIONS & PORTS

P20-25

世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

04 CRUISE SHIP & PEACE BOAT

P26-27

船室のご案内 / ビースポートクルーズ

A M A Z I N G A U R O R A

地球、そして宇宙で一番美しい天体現象 オーロラを追いかけて

想像を超える天体現象や、地球の鼓動を感じる壮大な自然。この美しい星・地球をめぐる旅の中で、宇宙と自然の神秘を体験してほしい—そんな思いから、ピースボートクルーズでは、皆既日食やオーロラなどの天体現象を観測するために、専門家が乗船しています。今回は、数々の観測企画を成功に導いてきた、元国立天文台研究職員の伊東昌市さんに、天空の神秘ともいわれるオーロラの魅力や、その奥深い仕組みについてお話を伺いました。

伊東昌市 Shoichi Itoh

元国立天文台研究職員

杉並区立科学教育センター・物理技術指導係長としてアメリカ・カナダをはじめ世界各地の天文台、天文教育施設を視察。プラネタリウムの国際化を積極的に進めてきた。2008年～2015年、国立天文台で専門研究職員等を務め、退職後も特別客員研究員等を歴任。現在も国立天文台4次元デジタル宇宙(4D2U)ドーム・シアターで解説を行っている。



2023年4月、東ティモール沖ピースボート洋上から撮影
今クルーズでは日食観測は実施いたしません

宇宙の力を体感させてくれるオーロラ

オーロラや皆既日食は、私たちが普段目にすることができる天体現象の中でも、地球、ひいては宇宙で一番美しいもののひとつ—そう語られることも少なくありません。私はこれまでオーロラを見たことがなかったのですが、昨年、ピースボートクルーズの船の上から初めて観測し、大きな感動を覚えました。

オーロラは、電場や磁場、磁力線が変化することで起こります。太陽の表面からは常にプラズマ粒子が飛び出しています。特に黒点付近は活動的で、磁場が絡み合い、磁力線も上空まで引き延ばされることがあります。磁力線がある一定まで伸びるとつなぎ替え(磁気再結合)が起こり、より短い経路となるように急速に縮もうとします。太陽側のプラズマ粒子は、磁力線の収縮と共に太陽表面に向かって叩きつけられ「フレア爆発」が起こりまくりす。太陽と反対側の粒子も、磁力線の変化とともに外向きに打ち出されます。一方地球でも、磁力線の内側には多くの電子が溜まっていますが、

そこに太陽から大量のプラズマ粒子が届くと、磁力線が乱され磁気再結合が起こります。これにより、地球の磁力線に沿って大量の電子が両極方向に流れ込みます。これらの電子が極地に近いエリアで、大気中の酸素や窒素などの、原子や分子と激しく衝突するんです。この衝突によって高いエネルギーを帯びた原子や分子が、元の状態に戻る際に放つ光が「オーロラ」です。

私たちの生活を形づくる物質も、原子と電子が電気的な力で結びついてできています。地球を含む宇宙は、目に見えない電気や磁場の力で満ちていて、オーロラはその働きを「目に見えるかたち」で実感させてくれる貴重な現象です。しかも、こうした現象は地球だけでなく、宇宙の、さまざまな場所でも観測されます。オーロラが、「宇宙全体が普遍である」ということを教えてくれているように思えます。



千変万化なオーロラを浴びる

オーロラといえば、やはりその色の変化が印象的です。これがまたおもしろくて、私たちは、太陽光のある中ではいろいろな波長が混じった太陽光が物に当たって跳ね返る「反射光」で世界を見ていますが、オーロラは原子や分子が「自ら放つ光」を見ています。星や星雲の光も同様で、ある特定の元素が出す光、その星を作っている原子のエネルギー—そのものを現わしているんです。だからその光を分析すれば、その星を構成する元素や温度や密度などの状態がわかります。私たち人間は一人ひとり指紋が違うように、原子にもその元素特有の指紋のようなものがあり、固有の光を放つのです。オーロラの光も、酸素や窒素といった原子や分子が、そのエネルギー状態に応じて発する特定の波長の光。虹の光のようにすべてが混ざった光ではなく、条件によって緑、赤、ピンクなどさまざまな色を持った光が現れるのです。まさに、大自然の驚異なのです。

ピースボートクルーズの洋上での観測時、まだ明るいうちからデッキで待機していた私を、海面近くから山火事かと思うほど、赤く染まる光景に包まれていきました。やがて段々と空の上部にも光が広がり、緑色のカーテン状のオーロラに変わっていきました。オーロラは、爆発的に大量の電子が降ってくるときに現れるものです。観察中に、天頂付近から真一文字の緑のオーロラが現れました。やがて幅を広げながらゆっくりと開いていくと、赤やピンク、青みがかった緑といった多彩な光が空を彩りました。すごいですよ、一晩中見えてるんですからね。オーロラがこちらに向かってくるようで、まるで「オーロラ浴」でとても呼びたくなるような体験でした。もちろん写真もたくさん撮りました。今はスマートフォンも性能がいいですから、十分に美しい写真が撮れますので、ぜひ挑戦してみてください。

A M A Z I N G AURORA

天空の饗宴から火と氷の国へ
REYKJAVIK - ICELAND
レイキャビク (アイスランド)



生きている地球、その先に広がる宇宙

オーロラを観測したのは、アイスランド沖でした。実は、アイスランドにはかねてから訪れてみたいと思っていた、大西洋中央海嶺が地上に出現した「ギャオ」という場所があります。地球のダイナミズムを象徴する場所です。今から100年以上前、ドイツの気象学者ウェゲナーが提唱した「大陸移動説」というものがあります。地球にはかつて「パンゲア」という巨大大陸が存在し、それらが分裂・移動して現在の大陸になったという説です。地形図を見ると、アフリカ西岸と南アメリカ東岸の海岸線がパズルのように合致すること、遠く離れた大陸間で、植物の植生が似ていたり、同じ種の化石が見つかったことなどがその根拠でしたが、当初は決定的な証拠がありませんでした。その後の調査で、海底の地形の不思議が発見されます。深い大西洋の真ん中辺りに溶岩が流れた跡があり、地球内部のマントルの湧き出す「海嶺」が山脈のように南北方向に延々と連なっていたんです。この海底山から東西方向に海洋

底が広がっていました。ここは地球表面の裂け目であり、今も少しずつ動いていることが解ったのです。海底が広がっていることや大陸が移動している証拠でした。アイスランドはその延長線上に位置していて、海嶺が目に見えるかたちで存在しています。大地が動いていることを地上で直接見ることができる、非常に貴重な場所なのです。科学という難しく感じるかもしれませんが、さまざまな自然現象を説明するための方法です。旅の安全や快適さも、科学の進歩で大きく変わってきました。地球一周の旅では、多くの文化や人びとと出会うだけでなく、地球そのものの壮大さを実感することができます。私たちは宇宙という広大な存在の中で、地球という天体にいるんだ。宇宙船地球号に乗って旅をしている存在なのだ」と感じられるかもしれません。

⑦



地球の鼓動を体感

“生きている地球”を体感できる見どころが、数多く点在するアイスランド。その象徴ともいえるのが、「ゴールデンサークル」とよばれるエリアです。毎秒140トンの氷河の雪解け水が注ぐ、アイスランド随一の滝・グトルフォス。地球の鼓動が熱湯となり、高さ70mも吹き上がる間欠泉。そしてユーラシアプレートと北米プレートが左右に引き合う地球の割れ目「ギャオ」がある、シンクヴェトリル国立公園。いずれのスポットを訪れても、生きている地球と自分が一体化するような感覚が味わえます。



レイキャビクで食を楽しむ

良質な魚が獲れるアイスランド。国際基準や最高レベルの業界水準に沿って、漁獲・加工されています。羊肉は約1,200年前の開拓期に、ヴァイキングが持ち込んだもの。交雑することなく現代に至った、世界最古の純血種家畜用羊です。街にはカフェも充実していて、浅煎りの豆を使った「ノルディックロースト」が人気です。



世界最北の首都

ダイナミックな自然に囲まれたレイキャビクは、歩いてまわれるコンパクトさ。カラフルで可愛い街並みは散策にも最適で、憩いのときが過ごせます。街の中心で異彩を放つのが、流れ出たマグマをイメージして建てられた「ハットルグリムス教会」。近未来的でありながら、自然と調和するように街並みに溶け込んでいます。





A Beautiful Voyage Across Two Seas

Aegean & Caribbean



エーゲ海
Aegean

カリブ海
Caribbean

Aegean &
Caribbean

クルーズ旅行愛好家が注目!

美しきエーゲ海 碧き楽園カリブ海

昨今のクルーズブームを牽引する客船クルーズ専門誌『CRUISE』。2023年春号掲載の、読者投票による「行ってみたいエリアランキング」では、エーゲ海とカリブ海というクルーズの王道エリアが上位に輝きました。今回、そのどちらのエリアにも寄港する本クルーズの魅力をご紹介します。



最新のクルーズ情報が満載!

★『CRUISE』エリア別ランキング★

No.1 地中海

No.2 エーゲ海

No.3 カリブ海

No.4 北欧

No.5 アラスカ

地中海・エーゲ海・カリブ海は、クルーズで訪れたエリアの中でも圧倒的な人気を誇る三大エリア。海からのアクセスだからこそ叶う、特別な体験と感動の景色が、寄港するたびにあなたを待っています。



エーゲ海の魅力は、何と言っても世界に名だたる遺跡が居並ぶアテネや、ロマンティックなサントリーニ島。飛行機で行くのは大変な場所も多く、船で島に近づいてゆくドラマティックな光景や出港シーンも見どころです。カリブ海は“クルーズのメッカ”とよばれる場所。行き交う客船、照りつける太陽にラテンのリズムー行くだけで元気をもらえる場所ですね。カンクンでは遺跡探訪もできますし、一方で「海だ!ビーチだ!」の気分も味わえる。さまざまな楽しみ方が叶うのが魅力でしょうか。どちらのエリアも、船で行くことで古の旅人たちと同じルートを辿り、同じ景色を眺められる。より一層、歴史や文化が感じられます。おまけに世界一周クルーズなら、航海日は専門家の話を聞いたり、予習・復習もできます。知的でぜいたくな時間を過ごしながら、ぜひエーゲ海やカリブ海を訪れてみてください。

吉田絵里

Eri Yoshida

雑誌『CRUISE』編集長

フリーランスのライター・編集者としての活動を経て、海事プレス社のクルーズ専門誌『CRUISE』の編集に挑み、2015年より編集長を務める。これまでに訪れた国は80カ国以上にのぼり、豊富な旅の経験を活かした取材と執筆に定評がある。著書に『世界の市場』『ニッポン聖地案内』『はじめての世界一周』など。WEB CRUISE (www.cruise-mag.com) にはビースポートの乗船レポートも掲載。



Aegean

エーゲ海を望む3つの寄港地

アテネ、サントリーニ島、クシャダスをめぐる珠玉の航路

青く澄んだ海と輝く太陽に包まれたエーゲ海。この地をめぐる航路では、古代の歴史に彩られた都市、絵画のように美しい島々、そして活気あるリゾートが迎えてくれます。



Athens

アテネ (ギリシャ)

古代遺跡が見つめるモダンな街並み

エーゲ海のさんさんと降り注ぐ陽光のもと、アテネ旧市街のプラカ地区を歩けば、足元にはところどころに古代の舗道跡が顔をのぞかせ、歴史の厚みを感じさせます。石畳の道を進むにつれ、やがて視界いっぱいにアクロポリスの丘が広がり、その頂にそびえる白亜のパルテノン神殿が堂々たる姿を現します。その荘厳な風景は、まるで時空を超えて古代へと誘われたかのような錯覚を覚えます。



遺跡の近隣は紛れもなく現代。軒を連ねるカフェからは香ばしいコーヒーの香りが立ちのぼります。



エリアごとに開かれるマルシェに立ち寄ると、この地の食文化や人びとの活気を間近に感じられます。



リラックス&アクティビティを楽しむことができるビーチもアテネ近郊にあります。



美しい海を眺めながらの、食体験も欠かせません。健康にもいいといわれるギリシャ料理に舌鼓を。

Santorini

サントリーニ島 (ギリシャ)

クルーズ船でこそ味わえる、憧れのエーゲ海リゾート

火山噴火で生まれたカルデラの内側へ直接入り込むこの航路は、船旅だからこそ体験できる特別なアプローチ。船は沖合に停泊し、テンドーポートでサントリーニ島の港まで向かいます。真っ白な家々が崖の上へ向かい階段状に連なる光景は圧巻です。



まるで絵本の世界に飛び込んだかのようなサントリーニ島には、行かなければ見ることができない素晴らしい絶景が広がっています。

街へ続く小道では、島民の足でもあるロバとすれ違うことも。レストランや可愛らしいお店が立ち並び、お土産選びにも熱が入ります。



平和の象徴「オリーブの木」が育つ未来へ

サントリーニ島の市庁舎前に、一本のオリーブの木が植えられています。この木は、2016年にピースポートに乗り船した広島、長崎の被爆者の方々と、サントリーニ島の人びととの交流の中で植樹されたものです。多くの国々では、被爆体験を直接聞いたことのある人はほとんどいません。だからこそ、私たちは現地を訪れ、人びとと対話を重ね、それぞれの経験に学びながら、「過ちを繰り返さない」という共通の願いのもとで、核も戦争もない未来をともにつくる協力の道を探していきます。



Kusadasi

クシャダス (トルコ)

トルコ文化とエーゲ海の自然

エーゲ海沿岸のビーチリゾートで、トルコの温かいおもてなしと、豊かな自然・歴史が魅力の寄港地。近郊には古代都市エフェソスの壮大な遺跡群が広がり、特に大理石造りのケルスス図書館跡は圧巻です。



世界三大料理・トルコ料理を楽しむ

「世界三大料理」の一角と称されるトルコ料理は、オスマン帝国の宮廷料理から庶民のストリートフードまで、多彩な食文化が融合したもの。スパイスの使い方、素材の組み合わせ、そのどれもが新鮮で、料理の一皿一皿が、まるでこの国の歴史や風土を語っているかのようです。



吉田編集長
もおすすめ!

ERI RECOMMENDS
エフェソス遺跡は、保存状態のとても良い古代遺跡。歴史的な迫力と世界の中心であったという感覚を味わえる場所は、世界を見ても多くはないですね。効率的な下水道システムが構築された公衆トイレや、約25,000人もが収容できるといわれる巨大な大劇場など、見どころ満載です。



Caribbean

紀元前から数千年にわたってメソアメリカの地で栄えたマヤ文明は、一説には約32万平方キロもの広大なジャングルの中に、40ものマヤ都市が点在し、王国や都市からなる一群を形成していたといいます。それぞれの都市には、王を中心に独自の神殿、天文台、球戯場などを持ち、都市同士が時には戦い、時には交易を通じて関係を築いてきました。

カリブ海とマヤ文明の旅 The Caribbean & The Maya Civilization

Cenote

セノーテ

「セノーテ」とは、古代マヤの言葉で“聖なる泉”を意味する言葉です。ユカタン半島特有の石灰岩地形によって形成されたこの天然の水源は、マヤ文明において神聖な儀式の場であり、地下世界(シュバルバ)への入り口と見なされていました。マヤの世界は三層構造(天・地上・地下)で成り立ち、セノーテはその中間に位置する“世界のへそ”ともいえる存在です。セノーテ内部の洞窟構造や天井から差し込む光は、まるで宇宙を象徴するような神秘性を湛えています。



The Maya Civilization

知と祈りの文明・マヤ

宇宙観と社会構造を映す、美しきマヤの都市



ピラミッドの近くには、ほぼ例外なく球戯場が設けられ、「ボクタボク」とよばれる球戯が行われていました。この競技は単なる娯楽ではなく、王権の正統性を示す宗教的・政治的儀式と密接に結びついていました。



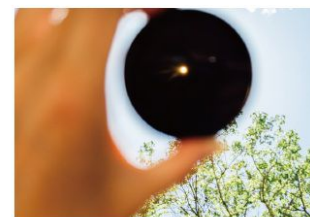
神殿や儀礼の場には、しばしばチャクモール像が置かれています。半身を起こして腹部に器をのせたこの像は、神に捧げる供物の台座とされ、実際にその上に生贄の心臓が置かれたと伝えられています。



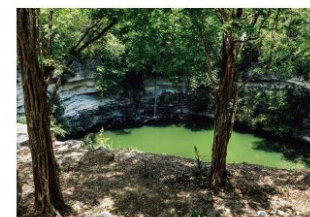
各都市が独自の神を祀るなど、宗教的性格や信仰体系には地域ごとの相違が見られます。なかでもチチェン・イツァでは、マヤ神話の創造神である羽毛の生えた蛇神「ククルカン」が主神として崇拝されていました。



天体の運行を正確に把握することで、農耕暦や宗教儀礼の時期を決めていたマヤの人びと。天文観測施設「カラコル」は、太陽・月・金星などの動きを精密に追うために設計され、マヤの高度な天文技術を象徴しています。



交易品でもあった黒曜石は、薄く加工され直接太陽を観察するために使われたそう。現在お土産として売られている黒曜石は、一見真っ黒ですが、太陽に向けて光が透け、かつて機能的に使われてきたのがわかります。



河川がほぼ存在しないユカタン半島。都市の維持には水資源の管理が不可欠でした。そこで活用されたのがセノーテです。セノーテは単なる水源にとどまらず、地下世界への入口とされ、宗教的にも極めて重要な場でした。

チチェン・イツァ

Chichén Itzá

メキシコのユカタン半島に位置する「チチェン・イツァ」は、かつて栄華を極めたマヤ文明を代表する大規模な遺跡群であり、1988年にユネスコの世界遺産にも登録されています。密林の中に忽然と姿を現すこの古代都市は、現在も多くの謎と魅力に満ちています。

なかでも象徴的な存在が、蛇神「ククルカン(Kukulkán)」を祀るピラミッド、「エル・カステイヨ(El Castillo)」です。春分と秋分の日には、太陽の角度とピラミッドの影が共鳴し、階段の側面に「ククルカンの降臨」とよばれる蛇の姿が現れる光の現象が起こります。この精緻な設計は、自然と宇宙、宗教儀礼を融合させたマヤ人の世界観を今に伝えます。



ピラミッドの四方には、それぞれ91段の階段が設けられており、最上部の1段を加えると合計365段になります。これは、現代の太陽暦における1年の日数と一致しており、マヤ文明が高度な天文学の知識を有していたことを示す象徴的な設計です。



エル・カステイヨの前で手を叩くと、その音が遺跡に反響し、中米に生息する鳥「ケツァール」の鳴き声のように聞こえます。マヤの神聖な象徴であり、「世界で最も美しい鳥」ともいわれるケツァール。偶然にしてはあまりにも精巧な反響音は、古代マヤ人による高度な音響設計の賜物かもしれません。

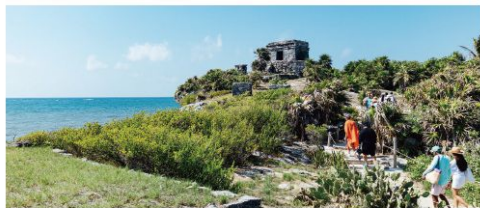


Caribbean

マヤ唯一の海辺の城塞都市 トゥルム遺跡

Tulu'um

ユカタン半島カリブ海沿いに位置する「トゥルム遺跡」は、マヤ遺跡の中でも他に類を見ない絶景で知られています。トゥルムはその地理的特性から、内陸に点在する他の都市とは異なり、戦略的な港湾都市として機能していました。周囲を防御壁で囲まれた構造は外敵からの防御を意図したもので、同時に海上交易の要衝として、内陸との物流・経済活動の拠点であったことを物語っています。



特筆すべき建物が、海を向いて建つ「風の神殿」です。海風を真正面から受けるこの神殿は、ハリケーンや嵐の接近を察知する気象観測所の役割も担っていました。マヤの人びとが、気象や航海に関する高度な知識と技術を有していたことが伺えます。

今も生きるマヤの知恵と文化



コバ遺跡&コバ村

ユカタン半島北東部の密林に眠る「コバ遺跡」は、かつて数万人が暮らしたとされるマヤの重要都市のひとつ。針のないミツバチを神格化した「アハ・ムツァン・カブ (Ah Mucen Kab)」への信仰が、コバ遺跡独自の文化的特徴として知られています。



3,000年続く養蜂

今も続く伝統的な養蜂スタイルによって採れる蜂蜜は、「マヤ・ハニー」とよばれる高級な自然食品・スキンケア製品に。マヤの古代層は、農耕や儀礼、人生の節目で使われ続けており、現代においても生きた知識として根付いています。



自らの文化に誇りをもつ

時代の流れとともに、マヤ語や伝統文化が薄れつつあるコバ村。村の外から来訪者を受け入れ、言語や文化体験をとおして交流をはかる新たな試みによって、村人自身が自らの文化に誇りをもち、再認識する機会も生まれているそうです。

Cancún / Playa del Carmen

現代のリゾート都市カンクンと
メキシコ文化の薫るプラヤ・デル・カルメン



世界屈指のリゾート地・カンクンでは、カリブ海らしいターコイズブルーの海と白砂のビーチを堪能できます。

カリブ海沿いに位置するプラヤ・デル・カルメンはローカルな雰囲気を楽しめる街。工芸品や民芸雑貨を扱うブティック、地元料理が楽しめるレストランやカフェが軒を連ね、歩くだけでメキシコの色彩豊かな文化にふれられます。



① 朝から夜まで賑わいが絶えないプラヤ・デル・カルメン ② 木陰では、地元の人びとが軽やかに音楽を奏でています ③ 印象的なモニュメントが設置された趣ある公園 ④ 飲みやすく、旅の気分を彩る人気のフレーバー・テキーラ ⑤ 新鮮な魚介と野菜の旨みが溶け込んだ風味豊かなスープ ⑥ 鮮やかな色合いが旅の記憶を彩る、カラフルなマグネット ⑦ 新鮮なフルーツを片手に、気ままな街歩きへ ⑧ レストランやバーでひと休みしながら楽しむ地元の味 ⑨ 路地裏をそぞろ歩くだけで、旅の楽しさが深まります ⑩ 白い砂浜では、サッカーを楽しむ人の姿も

Miami

船旅文化と アールデコの薫りが 融合する港町

マイアミ (米国・フロリダ州)

陽光あふれるフロリダ州・マイアミは、船旅の出発地として世界中の旅行者に愛される港町。朝焼けに染まるカリブ海のビーチでは、やわらかな波音と潮風が旅の始まりを告げます。

夕暮れから夜にかけては、マイアミのもうひとつの顔が現れます。サウスビーチ沿いにはアールデコ様式の建物が並び、レトロなネオンサインが通りを彩ります。まるで映画のワンシーンのような風景は、20世紀初頭から続くこの街の文化の象徴。散策するだけで、まるでタイムトラベルをしているかのような感覚に包まれます。



Enjoy the Americas!



米国ソウルフードといえば、
やっぱりハンバーガー

「Skinny Louie」はウインウッド地区にある人気のハンバーガー店で、高品質な食材を使用し、古き良きダイナーの雰囲気を感じられる。ボリューム満点のクラシックバーガーが地元客や観光客に評判です。

スキニー・ルーイ
Skinny Louie



じつは健康志向!?
南米の食文化も味わえる

ブラジル発祥のアサイー専門店「OAKBERRY Açai」は、マイアミなど世界各地に展開。高品質なアサイーボウルやスムージーが人気で、ヘルシーフードとして健康志向の地元住民や観光客に支持されています。

オークベリー・アサイー
OAKBERRY Açai



マイアミはいま、
クラフトビールがあつい!

「Casa La Rubia」はウインウッド地区にあるクラフトビール醸造所で、ラテンアメリカのルーツや多文化から着想した独自フレーバーのビールを提供。併設されたタップルームで新鮮な一杯が楽しめます。

カサ・ラルビア
Casa La Rubia



マイアミビーチで
本場米国ピザに挑戦!

マイアミビーチのオーシャン・ドライブにある「Pizza Days」は、本格ピザを提供する人気店でカジュアルな雰囲気や観光客も気軽に立ち寄れます。テイクアウトもできるのでビーチやホテルで楽しむのに最適です。

ピザデイズ
Pizza Days

アメリカンフードを楽しもう!

Hispanic Culture

マイアミを特徴づける、ヒスパニック文化



豊かなラテン文化が息づく街

マイアミは、さまざまなヒスパニックルーツを持つ人びとが集う多文化都市です。クルーズで訪れる旅行者にも人気のバイサイド・マーケットプレイスでは、多彩な食文化や音楽が楽しめ、さまざまな言語が飛び交うマイアミらしいにぎわいを体感できます。

バイサイド・マーケットプレイス
Bayside Marketplace



芸術と職人技の融合

芸術の街マイアミでは、ラテンアメリカの伝統技術を生かしたデザインが注目を集めています。そのひとつが、コロンビアの職人とともにものづくりを行う「Wanitta」。コレクションは職人支援や文化の継承といった社会的な役割も果たしています。

ワニッタ
Wanitta



音楽でラテン文化を体感

マイアミでラテン文化を感じるなら、音楽は欠かせません。街角のカフェやライブスポットでは、サルサ、メレンゲ、レゲトンなど、情熱的なリズムが響き渡ります。音楽を通じて人と人とのつながる様子が、マイアミの日常には息づいています。

ボール&チェーン
Ball & Chain



味覚で体験するラテン文化

本格的なキューバの家庭料理が楽しめる、マイアミならではの食文化を体験できる「プエルト・サグア」は、地元の人びとや観光客に長年親しまれてきました。昔ながらのダイナー風の内装は、まるでハバナの街角に行んでいるような雰囲気を感じさせてくれます。

プエルト・サグア
Puerto Sagua



吉田編集長
もおすすめ!

ERI RECOMMENDS

カリブ海の玄関口マイアミは、歴史的に船での交流が盛んであり、英語圏でありながらスペイン語圏の文化が色濃く残っているため、歴史と文化の両方を感じられます。スペイン語の挨拶などを覚えていくと、より楽しめるでしょう!



OVERLAND TOUR

オーバーランドツアー

★ もっと米国を堪能したい方へ ★



ニューオーリンズで本場ジャズ体験

アメリカ南部・ルイジアナ州最大の都市「ニューオーリンズ」は、ジャズ発祥の地として知られ、音楽、料理、文化が融合した独特の魅力を持つ都市です。ダウンタウンと郊外を結ぶ世界最古の現役ストリートカー（路面電車）が走る米国レトロな街並みも楽しめます。

「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧



**台湾
高雄**
年中温暖な台湾第二の都市・高雄で過ごす、アートやパワースポットをめぐるひととき



シンガポール
幸くて甘くて酸っぱくて―多様な文化と歴史が生んだ、美味なる一皿を探して



**スリランカ
コロンボ**
インド洋に浮かぶ“光り輝く島”スリランカで、街の熱気と祈りのパワーに身をゆだねる



スエズ運河
アフリカ大陸とシナイ半島―ふたつの大地の狭間をゆく、優雅なるシーニッククルーズ



**エジプト
ポートサイド**
いつの世も旅人たちの憧れの地。知的好奇心を刺激する、数々の世界遺産と出会う



**トルコ
クシャダス**
魅惑のグルメで「食の十字路」を体感。東西融合の産物、トルコ料理を堪能する



**ギリシャ
サントリーニ島**
エーゲ海の太陽が照らす美しい景観が迎える、ロマンティックなサントリーニ島へ



**ギリシャ
パレウス**
女神たちが見守る、ギリシャ神話の舞台。古代と現代が行き交うアテネの街の歴史散歩



**イタリア
カリアリ** [サルデーニャ島]
地中海の陽光が降りそそぐ、ラコッタ色の街並み。美しきリゾート、サルデーニャ島



**スペイン
バレンシア**
国内屈指の食の都で味わいたい、目にも美味しい魅惑のスペイングルメ



**ボルトガル
ポルト**
旅情を誘うボルトガルの歴史都市。坂の街が紡ぐ、大航海時代の物語を紡いで



**米国
リバプール**
英国の発展を支えた海の玄関口。クラシカルな街並みに、ビートルズの足跡を探して



**五夜連続の
オーロラチャンス**
オーロラ観測に照準を合わせた特別な時間。船上から体験する夢のオーロラハント



**アイスランド
レイキャビク**
間欠泉や暮音を響かせる滝―ダイナミックな自然と隣り合う世界最北の首都へ



**米国
ニューヨーク**
スクリーンの中の光景が目の前に広がる、世界都市ニューヨークで叶える夢の時間



**米国
マイアミ**
ラテンカルチャーも大きな見どころ！白いビーチが手招く、全米きってのリゾート地



**メキシコ
カンクン**
絶品のメキシカン料理と美味しいお酒。カリビアンリゾートに流れる、陽気なひととき



**パナマ
クリストバル**
歴史が香る港街で、豊かな自然と出会う。パナマ運河のお膝元で過ごす豊かな時間



パナマ運河
壮大なふたつの海をつなぐ、海上交通の要所・パナマ運河の通航を船上から体験！



**ペルー
カヤオ**
深き山に佇む謎の集落跡。“秘めたる史実”を語るこの美しい、世界遺産マチュピチュへ



**チリ
イースター島**
遥か彼方を見据えるモアイ像と出逢いに、紺碧の海に浮かぶ温かい島・イースター島



**タヒチ
パペーテ**
陽気なムードと南国の風に誘われて。常夏のタヒチで味わいたい、心を解き放つ旅



**米国
ホノルル**
有名スポットに独自のカルチャー、バラエティ豊かなグルメも楽しめる世界的リゾート



★ここもはずせない！注目の寄港地をご紹介★

世界遺産マチュピチュ遺跡やナスカの地上絵で知られる古代文明の宝庫・ペルー。イースター島、タヒチなど独自の文化圏を築くポリネシアの島々。まだまだお伝えしきれない魅力あふれる旅の情報は、二次元コードからチェック！

Callao
カヤオ



いままおどくの謎に包まれるマチュピチュはもちろん、そのベースとなった文明そのものも私たちに大いに知りました。さあ、たくさんの“不思議”が待つペルーの地へ。
▶詳しくは22-23ページへ

South
Pacific

南太平洋



南太平洋に点在するイースター島、タヒチなどポリネシアの島々は、じつは共通の文化圏を築いてきた歴史をもっています。人びとを惹きつけてやまない素顔のリゾートと出逢いに。
▶詳しくは24-25ページへ

ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や振替になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、テンドーボートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できないこともございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考へ、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアーを含むオプションツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時下船して別の港で再会合するツアーです。本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースポートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく全て旅のイメージです。
- ご自宅から集合・解散地等乗船までの交通費は含まれません。
- オーロラは自然現象のため、気象条件などにより観測しただけの場合がございます。
- イースター島では原則自由行動はできません。後日案内するオプションツアーにご参加ください。

パシフィック・ワールド号でゆくピースポート地球一周の船旅
2028年8月 Voyage130

横浜発着109日間 2028.8.21 (月) - 12.7 (木)

日程		寄港地	
8.21 月	出航 午後	横浜	
8.25 金	入港 午前 出港 夜	高雄	台湾
8.30 水	入港 朝 出港 深夜	シンガポール	
9.4 月	入港 午前 出港 夜	コロンボ	スリランカ
スエズ運河通航			
9.15 金	入港 午後	ポートサイド	エジプト
9.16 土	出港 夜		
9.18 月	入港 午前 出港 夜	クシャダス	トルコ
9.19 火	歸泊 午前 発 夜	サントリーニ島	ギリシャ
9.20 水	入港 朝 出港 深夜	ピレウス	ギリシャ
9.23 土	入港 午前 出港 夜	カリアリ [サルデニャ島]	イタリア
9.25 月	入港 朝 出港 夜	バレンシア	スペイン
9.28 木	入港 朝 出港 夜	ポルト	ポルトガル
10.1 日	入港 朝	リバプール	英国
10.2 月	出港 夜		
10.3 火	1回目のオーロラチャンス		
10.4 水	2回目のオーロラチャンス		
10.5 木	3回目のオーロラチャンス		
10.6 金	4回目のオーロラチャンス		
10.7 土	入港 朝 出港 夜	レイキャビク	アイスランド
5回目のオーロラチャンス			
10.14 土	入港 朝	ニューヨーク	米国
10.15 日	出港 深夜		
10.19 木	入港 朝 出港 夜	マイアミ	米国
10.21 土	入港 午前 出港 深夜	カンクン	メキシコ
10.24 火	入港 午前	クリストバル	パナマ
10.25 水	出港 早朝		
パナマ運河通航			
10.30 月	入港 早朝	カヤオ	ペルー
10.31 火	停泊		
11.1 水	停泊		
11.2 木	出港 深夜	イースター島	チリ
11.8 水	歸泊 午前 発 夜		
11.18 土	入港 朝 出港 夜	パペーテ	タヒチ
11.25 土	入港 午前	ホノルル [オアフ島]	米国
11.26 日	出港 深夜		
12.7 木	帰港 午前	横浜	

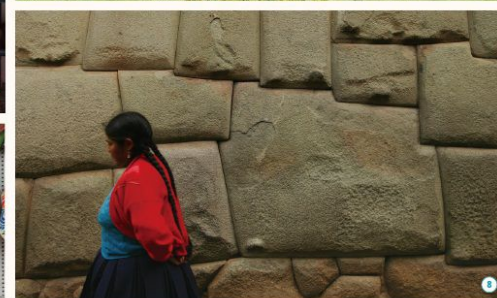
※訪問地や船路は、天候や海況の状況による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

0:00~	4:00~	6:00~	8:00~	12:00~	18:00~	23:00~
深夜	早朝	朝	午前	午後	夜	深夜

ペルーの絶景と 出会う

Landscapes Beyond Imagination

かつて古代文明が息づき、いまなお発掘が進むたびに人類の歴史に新たな発見をもたらすペルー。旅のハイライトでもある“空中都市”マチュピチュなど、ペルーが抱く神秘とロマンが旅人たちを魅了します。



① 天空に浮かぶマチュピチュ遺跡 ② 世界中から旅人が集う ③ 訪れたからこそ見える素晴らしい景色 ④ アンデスの風と暮らすアルパカ ⑤ ペルーの歴史を学べるラルコ博物館 / リマ ⑥ 色鮮やかなお土産の数々 / リマ ⑦ 歴史と文化の中心、アルマス広場 / クスコ ⑧ インカ文明の技術力の象徴、12角の石 / クスコ

秘めたる史実を宿した神秘的遺跡 世界中の旅人たちが目指すマチュピチュの地へ

人里はなれた山奥にひっそりと佇む、世界複合遺産・マチュピチュ遺跡。インカ帝国崩壊後も、その地理的要因ゆえに破壊をまぬがれ、雲がかかる険しい尾根の狭間で当時のままの姿を保ってきました。最近の研究では、15世紀頃にインカ帝国第9代皇帝によって建造されたことが解明されましたが、発見から100年以上たった今も未だに多くの謎が残されたまま。車輪や滑車がなかったインカ帝国時代において、これほどの高所にどのように巨石を運搬したのか。しかも彼らの文明は“文字”をもたず、歴史を伝える言葉はこの世に残っていません。しかしながら、遺跡の随所に見られる精巧な建築技術や、自然の摂理を取り入れた集落跡は、非常に高度な文明がたしかに在ったこ

との証です。歴史の扉は閉ざされたまま—永遠に解き明かされることのない謎が、なおのこと私たちのロマンを誘います。そしてペルーの見どころは、マチュピチュだけにとどまりません。地上絵で知られるナスカや、インカ帝国時代の首都であったクスコなど、ペルーは多数の世界遺産が顔を揃える魅惑の地です。クスコの街にもマチュピチュと同様に、高度な建造技術が光る石組みの通りがあります。寸分の隙間もなくびったりと積まれた石の中には、実に12もの角をもつ不思議な石も。単純に四角の石を積みれば良いものを、あえて12角の石を用いて石組みをつくった精巧な技術—時代を超えて、古の人びとの崇高な美意識を感じずにはいられません。

船上に連なる ペルーの世界



カラフルなアンデス土産



アンデス音楽を楽しむ



洋上で出会う、ペルーの味

クルーズのメリットは、寄港前から訪れる国の文化や歴史にふれられること。ペルー国内外で活躍するアーティストを招いて、文化紹介を交えながらアンデス音楽のバンド演奏を楽しむなど、一足先に現地の空気を体感する多彩なイベントが催されています。



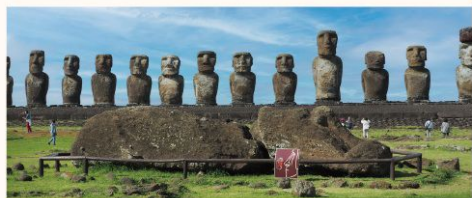
絶海の孤島が 魅せる風景

A Vision from a Remote Island

周囲約2,000kmに人の住む島はなく、外界から隔絶されたように佇む島—現地の人が「ラバ・ヌイ(大きな島)」とよぶイースター島には約1,000体もの巨大なモアイ像が点在し、謎を秘めたまま遥か彼方を見つめ続けています。

火山島であるイースター島。島の海岸線は断崖絶壁が岩場に囲まれているため、沖合でテnderポートへ乗り換えて上陸します。深度のある海は独自の群青色を生み出し、海を渡る私たちの目の前に、「いつか見たい」と憧れ続けたモアイ像のシルエットが映し出される—絶海の孤島に待つ絶景を前に、あふれる好奇心はとどまることを知りません。

チリ
イースター島



オロンゴ岬



島の南西にあるオロンゴ岬からは、遮るものがない紺碧の海が広がります。かつてイースター島では、この岬から断崖を降りて海を泳いで沖合の島へと渡り、一番早く海鳥の卵を持ち帰ることで翌年の首長を決めたといわれる「鳥人儀礼」が行われていました。岬の先端の岩には鳥の頭をもつ鳥人のレリーフが残され、今なお神聖で神秘的な雰囲気漂わせています。



多彩なモアイたち



モアイ像といっても、その姿は実にさまざま。目がはめ込まれたものや、「ブカオ」とよばれる帽子や髪の毛を模した岩を頭に乘せたもの、島で唯一の正座したものなど、ユニークなフォルムをしたモアイも。お土産もモアイ色で、置物からアクセサリーまで、島の人びとが作った“世界でここだけ”の逸品と出会えるでしょう。



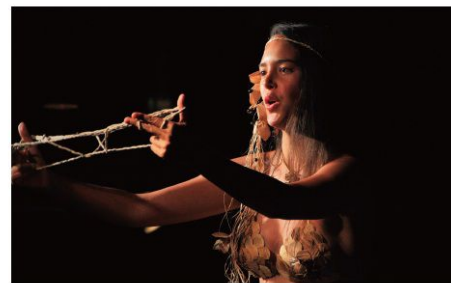
ラノ・ララク



海岸から内陸を見渡すと、緑に覆われたなだらかな丘の上に、たくさんのモアイ像が奇妙な姿で行んでいるのが目にとまります。ここはラノ・ララクと呼ばれる「モアイ製造工場跡地」。何らかの理由で、作ることや運ぶことを放棄されたモアイたち。横たわり、半身が埋まるなどの姿のまま大地と一体化し、虚空を見つめたまま静かに時を刻み続けています。



伝統文化を洋上で体験

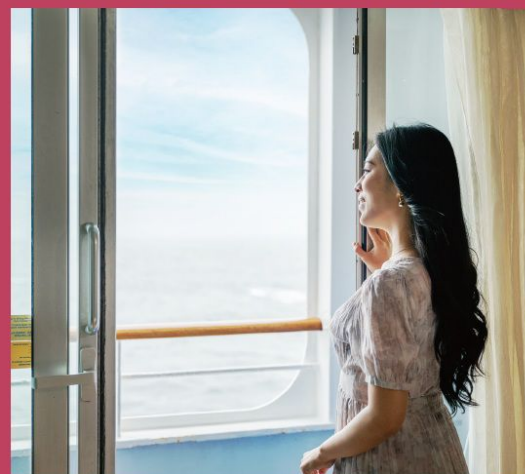
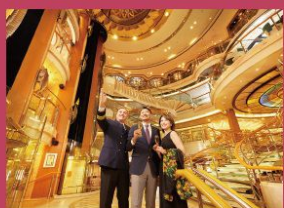


唯一無二の巨石文化が紡がれたイースター島は、モアイの他にも独自の文字や言語、島に伝わる伝統舞踊など、さまざまな文化的要素を守り継いでいます。船上でも伝統的ダンスのパフォーマンスステージなどが催され、学びと体験は寄港地のみにとどまらず、多彩なイベントをとおしてイースター島の豊かさにふれることができます。

Why Travel by Cruise Ship?

「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために

ゆったりと時が流れる船旅では、船上で過ごす毎日そのものが旅のハイライトになります。海風を感じながら読書を楽しみ、海を眺めつつ味わう食事は、心身を解き放つひとときです。長期旅行で煩雑になりがちな荷物移動も、クルーズなら出航後に船室で旅装を解けば、下船の直前までパッキングは不要。「移動」と「リゾート滞在」のいいところができるのが、大きな魅力です。



多様なニーズに合わせて選べる船室の数々



Pair Owner's Suite ペアオーナーズスイート



Pair Premium Suite ペアプレミアムスイート

Pair Junior Suite ペアジュニアスイート



ペアバルコニーⅠ



シングルスタンダードインサイドⅡ



セミシングルアウトサイドⅠ



フレンドリースタンダードインサイドⅠ

Why Travel with PEACE BOAT?

「世界一周」という特別な旅が、サステナブルなものであるために

40年以上にわたり船旅を企画し、100回以上の世界一周クルーズを成功させてきたピースボートクルーズは、これまでに培った経験を生かし、よりエンシカル(倫理的)でサステナブルな旅を追求しています。地球環境への配慮はもちろん、寄港地で私たちを迎えてくれる国々や人びとの相互理解を深め、旅を通じてともに持続可能な未来を築くことをめざしています。



洋上レストランで、持続可能な水産物を提供

持続可能な漁業で漁獲され適切に管理されたMSC認証の水産物、認証済み養殖場から供給されたASC認証の水産物を積極的に取り入れ、持続可能な水産物への取り組みを選択することを心がけています。

ノーベル平和センターと提携した常設展を開催

2025年4月、ピースボートとノルウェーのノーベル平和センターの提携により、ノーベル平和賞授賞式に合わせて更新される「ノーベル平和賞企画展」がパンフィック・ワールド号に常設されています。



SDGs公式キャンペーン船として認定

国連とパートナーシップを結び、2015年に決議された「持続可能な開発のための目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として認定され、船内や訪れる国々でSDGsに関連する取り組みを実施しています。



国連海洋会議を本船バシフィック・ワールド号で開催

国連本部があるニューヨーク寄港時は船上で国連会議を開催。ここでの交流や意見交換は国連に反映され、環境保護の取り組みや議論の活性化につながり、若い世代の声を届ける役割も果たします。



交流を続けながら、世界各地へ支援物資を

たくさんの物を運べるという大型客船の特性を活かし、寄港地のニーズに合わせて支援物資を届けています。届ける物資は楽器や文房具、衣料品、スポーツ用品、衛生用品、車など、多岐にわたります。



各界の専門家地球一周の旅をナビゲート

遠隔地への旅を通して知識を深め、現実的な社会問題や環境問題への意識を高めるきっかけとなり、それらを「自分ごと」として捉える視点や思考を育みます。